



平成 25 年度助成事業

## 誰もが穏やかな終末期を迎えるために！

団 体 名 : 公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

事 業 名 : 終末期にある者とその家族支援に関する事業

助 成 テ ー マ : 難病や終末期医療等の重度な状態にある者と  
その家族の支援に関する事業

助 成 区 分 : 全国的・広域的ネットワーク活動支援事業

助 成 金 額 : 7, 0 4 2 千円

### ここに注目

◆「看取り文化の醸成」のため、地域住民の方々へ意識啓発するとともに、医療従事者や施設職員の方々への研修を行い、地域社会全体で理解を深めながら終末期在宅療養患者およびその家族を支援する体制の整備に取り組まれています。

### 事業の背景

◆多くの方々が、最後まで自宅などの慣れ親しんだ環境で過ごしたいと願っていますが、「家族への負担」、「急変した時の対応への不安」等により、最期まで療養することは困難であると感じている方が少なくない現状にあります。

◆そこで、この事業では、全国3地域の連携団体と協力し、在宅、医療機関、介護施設など、どのような場においても穏やかな終末期を迎えることができる地域づくりを目指して取り組まれました。

### 事業概要

◆実行委員会においては、連携団体の担当者が参画しており、事業実施における課題・問題点の改善に向けた協議、情報の共有が図られ、事業が効率的かつ効果的に進められました。

◆各連携団体（全国3地域）において、地域内での医療機関、福祉施設、行政などと連携体制を構築し、終末期に関する住民への意識啓発、医療従事者・施設職員の研修（施設における終末期体制の整備）、終末期在宅医療患者及びその家族を支援する体制の整備を実施されました。

◆看取りケアの手引き作成班を組織し、連携団体のニーズをもとに検討を行いながら作成されました。本事業終了後も連携団体のみならず、他の地域でも取り組んでいただけるような汎用性のある内容としてとりまとめられています。

◆「生きて逝くシート」は、在宅、病院、施設、いずれの場所においても利用することが



可能で、このシートを利用することで、かかわる多職種の方々が、患者やご家族の“思い”に寄り添う医療・介護サービスが提供できるように工夫されたものになっています。

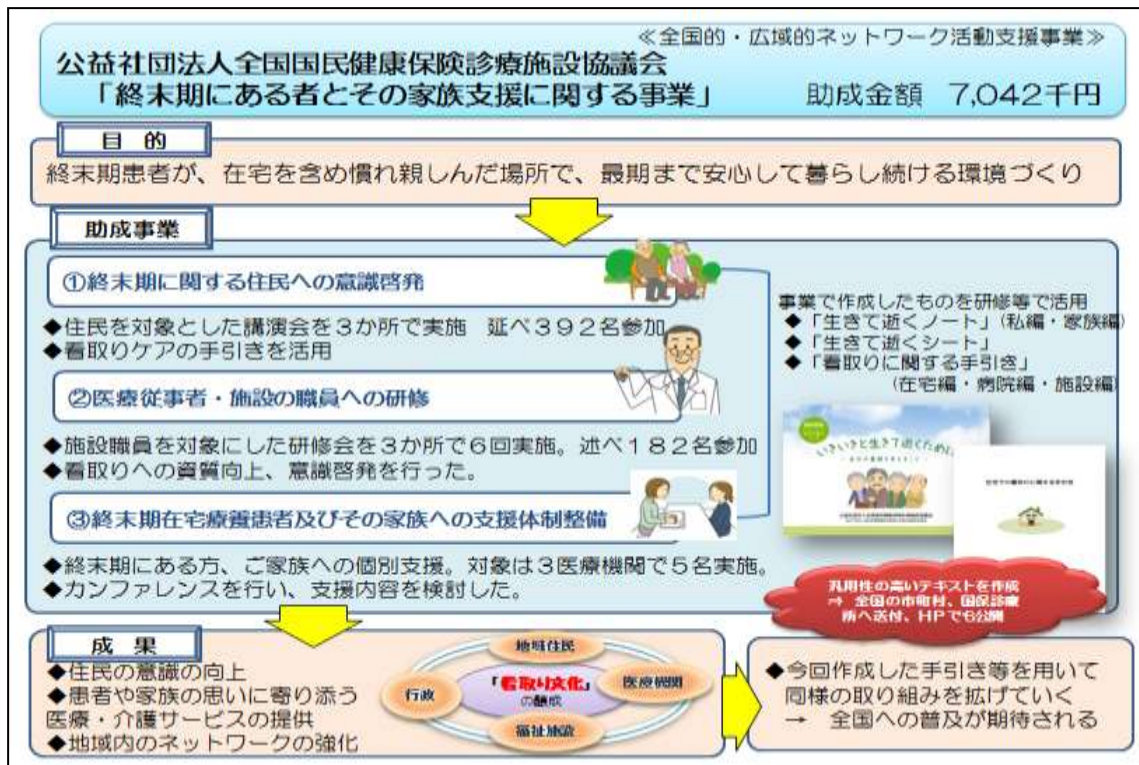
### 外部有識者のコメント

長寿社会における医療・介護かつ国民の避けられない課題に、貴組織の地域に根差したこれまでの医療活動を基盤にした積極的な取り組みは極めて高く評価される。

地域住民や関係機関とともに終末期に取り組む姿勢も非常に高く評価され、実施体制やそのプロセスも高い水準にあると思われた。

成果については、「生きて逝くノート」など特徴ある成果物となっており、その活用と地域全体で看取る体制作りのさらなる進化・発展が期待される。

今後は、モデル的な活動にとどまることなく、全国各地に同様の活動が広がるよう組織を挙げて普及活動に取り組んでいただきたい。



### 成果物

- ◆平成25年度活動報告書
- ◆生きて逝くノート (いきいきと生きて逝くために-自分の最期を考えること-)
- ◆生きて逝くシート
- ◆看取りに関する手引き (在宅編・病院編・施設編)
- ◆住民向け講演用パワーポイント

### お問い合わせ先

〒105-0012 東京都港区芝大門2-6-6 芝大門エクセレントビル4F

公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会

TEL 03-6809-2466 HP アドレス: <http://www.kokushinkyō.or.jp>

活動報告書  
 <クリック!>